

「私たちは絶滅の淵に」

2019年9月23日、国連が主催する「気候変動サミット」で、スウェーデンの環境活動家のグレタ・トゥンベリさん(16歳)が演説した内容の一部を紹介します。

ここ10年間で温室効果ガスの排出量を半減するというよくある考えでは、気温上昇を1.5度に抑えられる可能性は50%しかなく、

人類が制御できない不可逆的な連鎖反応を引き起こす恐れがある。

あなたたちは50%で満足かもしれない。でもこの数字は、あなたたちが空気中に出した何千億トンの二酸化炭素(CO₂)を、私たちの世代が(現時点で)

ほとんど存在していない技術で吸収することを当てにしている。だから、50%の危険性は私たちにとって単に受け入れられないというだけではない。

私たちはその結果と共に生きていかなければならないからだ。

地球の気温上昇を1.5に抑える確率を67%にするには、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の最善の見立てでは、2018年1月1日時点で世界で残されたCO₂排出許容量は4200億トンだった。現在では3500億トンを下回った。

よくも従来通りの取り組みと技術的な解決策で何とかなるなんて装うことができたものだ。現在の排出レベルでは、残されたCO₂排出許容量に8年半も

たたずに達してしまう。現在、この数字にそって作られた解決策や計画は全くない。なぜなら、これらの数字は都合が悪すぎるからだ。あなたたちが私

たちを失望させる選択をすれば、私たちは決して許さない。あなたたちを逃がさない。世界は目を覚ましつつある。変化が訪れようとしている。